



特集
利府の新生業
十符の里びと4人目
里山旬味 うちみ旅館
内海貴史さん
tsumiki 発 チャレンジャー
Red Comet Intelligence
佐藤聰明さん

×××××

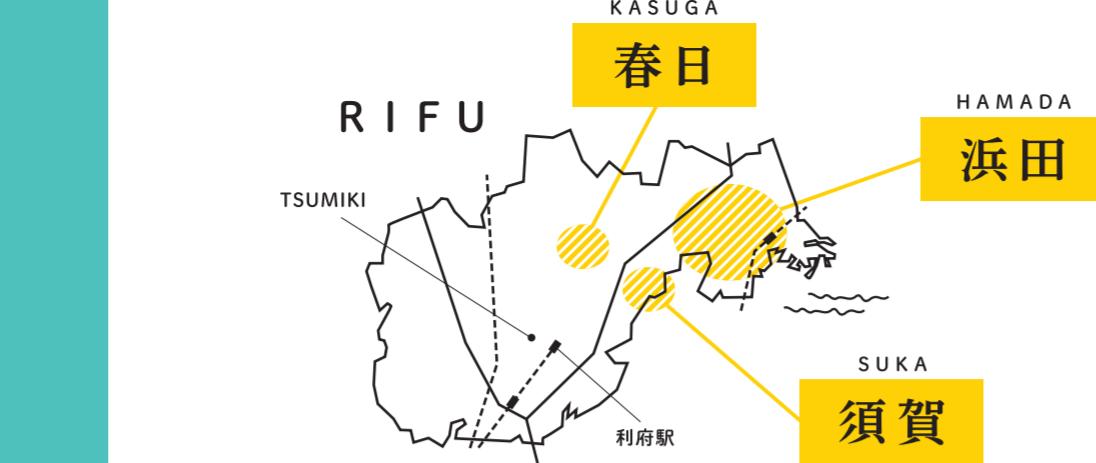
NEW 新 NARIWAI 生業

—若者による新たな活力の芽吹き—

漁業 × ドローン 農業 × ミュージック

利府町を見渡すと、平地には水田が広がり、丘陵地には梨の栽培を中心とした果樹園が多くあります。一方、松島湾に面する東部地区では、カキやワカメの養殖が行われています。その実情を知ろうと、利府町で農業と漁業を生業としている方々を訪ねました。そこには、生き生きと働く若い担い手の姿がありました。

×××××



ドローンから見た松島の風景。みたことのない景色に参加者も興奮する

② NEW NARIWAI 農業 × ミュージック

Agriculture Music

シンガーソングライターノーカー

赤間 泰樹さん(37歳)



「農家は楽しいよ！」
って伝えたい

「シンガーソングライターノーカー」という一風変わった肩書きを持つ赤間泰樹さん。利府町春日地区を中心に、田んぼ約1.5ヘクタール、約70アールの梨畑を持ち、米、梨、数種類の野菜を栽培しています。3世代の8人家族。一家で農業を営んでいます。

晴れた日はクワを、
雨の日はギターを

赤間さんは、自身のことを「シンガーソングライターノーカー」と呼びます。大学時代からギターを始め、サークルでデュオやバンド活動を経験。サラ



リーマン時代も仕事が終わるとライブに出演するなど、音楽の活動を継続してきました。

現在も農業を通して目にした光景や、家族との日常を曲にし、農業の魅力をライブ活動などで伝えています。

(取材・文 tsumikiライター鈴木沙菜)

脱サラして農家に転身

大学卒業後、9年間農業に関する会社でサラリーマン生活を過ごしました。農家の長男として生まれた赤間さん、「小さい頃は農業にさほど興味はなかった」と言います。しかし、サラリーマン時代、高齢化などに悩



第1次産業の現状と展望

利府町の産業従事者の割合をみると、第1次産業従事者が1.9%、第2次が22.8%、第3次が74.0%となっています(平成27年国勢調査より)。第1次産業従事者は多くありません。利府町は人口約3万6,000人の町で、約684人が第1次産業従事者という計算です。しかし、地域を歩いてみると、1次産業従事者が、自由度の高い思い切った取り組みをしている場面に出会います。町域には海もあり、農業だけでなく、漁業者もいます。一方、消費者となる第3次産業従事者の割合と比較しても高くなっています。この状況下だからこそ、都市近郊のいわば新しい6次産業化モデル(新生業)の取り組みが登場するかもしれません。既存の産業と、それとかけ離れた業種を掛け合わせた取り組みのことを「クリエイティブインダストリー」と呼び、現在注目を集めています。

(tsumikiアドバイザー 宮城大学准教授 佐々木秀之)

tsumikiスタッフと行く のんびりまち歩き

浜田・須賀

HAMADA & SUKA



JR仙石線
陸前浜田駅

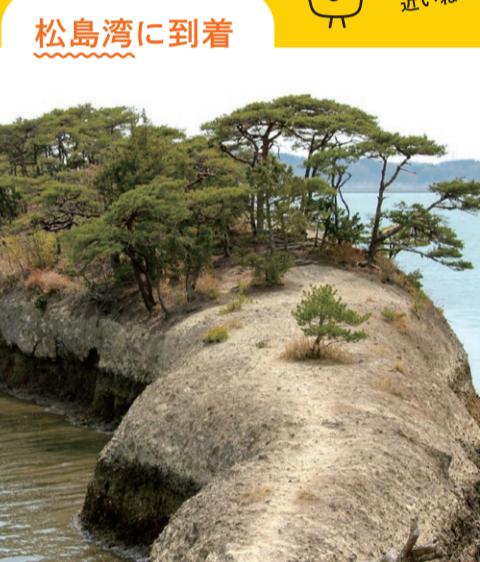
駅前の地図をチェックして探索スタート

出発だー



歩いて半島の先へ

自然豊かな道中は、絶好のウォーキングコース



馬の背 うまのせ

穏やかな松島湾を一望できるベストスポット。長年の波の浸食によって今のような天然の橋樋が全国でも珍しい。

鎧島 よろいじま

表松島には、鎧の形をした島やさまざまな形をした島が点在している。

「利府町浜田」

松島湾が目の前。だけどここは利府町浜田であることを示す地標がある。

かき焼き処

折り返して浜田駅近くの「かき焼き処」へ。浜田カキ生産組合直売所では、新鮮なカキ剥き身の販売もしている。利府には、漁業組合はなく塙釜市漁業組合が管理運営。

浜田のカキ

松島湾で収穫。身は小ぶりでも、ぶりっとしてて美味しい!



海の恵みを受け、
海を遊びつくし、
自然に暮らす

第七かなめ丸船長の櫻井保さんと、息子の統也さん。利府町赤沼字須賀で、漁師をしながら、民宿を経営しています。最近では漁業体験や島巡りツアーなども実施。親子で漁業を継承し、利府を訪れる人々をもてなしています。

利府に伝わる漁法

保さん 利府の漁業は、カキやワカメの養殖が主流だね。うちでやっているのは、リアス式海岸の地形を利用した伝統漁。上げ潮のときに網を設置し、下げ潮のときに海面を竹で叩いてその網に追い込んでいく追い込み漁や刺し



漁師の道を選んだわけ

保さん 選択の余地はなかったね。ずっと流れできているから。
統也さん 小さい頃から海

刺し網漁の釣果

櫻井保さん(50歳)
櫻井 統也さん(18歳)



Fishing industry

Drone

民宿ハーバーハウスかなめ

櫻井 保さん(50歳)
櫻井 統也さん(18歳)

海の恵みを受け、
海を遊びつくし、
自然に暮らす

第七かなめ丸船長の櫻井保さんと、息子の統也さん。利府町赤沼字須賀で、漁師をしながら、民宿を経営しています。最近では漁業体験や島巡りツアーなども実施。親子で漁業を継承し、利府を訪れる人々をもてなしています。

利府に伝わる漁法

保さん 利府の漁業は、カキやワカメの養殖が主流だね。うちでやっているのは、リアス式海岸の地形を利用した伝統漁。上げ潮のときに網を設置し、下げ潮のときに海面を竹で叩いてその網に追い込んでいく追い込み漁や刺し



漁師の道を選んだわけ

保さん 選択の余地はなかったね。ずっと流れできているから。
統也さん 小さい頃から海

刺し網漁の釣果

櫻井保さん(50歳)
櫻井 統也さん(18歳)



Fishing industry

Drone



4人目

-お名前
うちみたかし
内海貴史さん-なにをしているひとですか?
利府町にある
「沢乙温泉 里山旬味 うちみ旅館」を
営んでいる九代目主人です。**1200年の歴史を持つ
沢乙温泉の湯を守る**

利府駅から車で10分ほど、グランディ21近くにある「うちみ旅館」。宿周辺は、たくさんの中澤に囲まれた自然豊かなところ。1200年の長い歴史を持つ沢乙温泉。来館者は、鉱泉の温泉と自然の恵みを活かした料理を楽しむことができます。沢乙温泉の湯守であり、うちみ旅館の経営者、料理長でもある内海貴史さん(43歳)に、お話を伺いました。

変化のきっかけは
コンサートだった

旅館の創業は、江戸時代後期から始まり九代続いています。昭和の初め頃は、地域の人々の農作業の疲れを癒す湯治場として、平成バブル景気の頃は団体の宴会客でにぎわった時期もありました。「時代によって変化するニーズに適応しながら、今まで引き継がれてきたんです」と内海さんは言います。しかし、内海さんが経営を引き継いだ当初は、多様化するお客様の要望に上手く応えられず、悩んでいました。

2015年グランディ21で嵐のコンサートが行われた際、旅館を利用するお客様の存在がきっかけとなって、時代のニーズに合わせることが大事だと気付きました。コンサートを訪れる



お客様は、夕食を取らない方が多く、若い人々は使える費用が限られています。そんなニーズに合わせて生まれたのが価格を抑えた「一泊朝食付き」ごだわりの和朝食膳プランでした。

朝から、宿のミネラルたっぷりの鉱泉水で炊いたごはんと地元で取れた季節の野菜をたっぷり使った献立。心づくしのものなしは、「実家に帰った時の思いやりを感じ、心が温かくなる」と大好評。お客様の心に寄添ったおもてなしが伝わったのか、WEBでの口コミが広がり徐々に利用客が増え、リピーターも多くなりました。「宿の思いに応えるように、訪れたお客様自体がPRしてくれようになり、人ととのつながりが大切だと実感しました」。

利府町に「ある」もの

大学在学中に通った調理師学校を経て、京料理の流れを汲む日本料理の店で修業した内海さん。34歳のころ、実家であるうちみ旅館の料理長に就任。その後、40歳の時九代目主人を継ぎ、料理長と兼任してきました。地元の方々やスタッフ、友人、お客様に支えられ、試行錯誤しながら旅館経営を続けてきました。商いを長く続ける秘訣があるとすれば「日々一生懸命に仕事に向き合い、喜んでいただけるように、お客様の心に寄添うことはないでしょうか」と言います。

「利府町は観光スポットが少ないが、実は日本有数のビッグスタジアム



であるグランディ21があります。ぜひそれを活かし、そこで行われるイベントに、おもてなしの心で町民が関わるような状況が望ましい」と指摘し、さらに「利府町には、古代ロマンあふれる歴史と親切な町民性がある。微力ではあるが、利府町の一員として訪れたお客様に心温まるおもてなしをすることが、利府町に貢献できることだと思っています」。

湯守として、料理人として

内海さんは、利府町民の方々に提案する「うちみ旅館」の利用方法のひとつは、特別な日のお祝いや記念日などに食の場として利用していくこと。「人が食材の命をいただいて大切な命を繋いでいる尊さ…だからこそ、食事の前の挨拶は『命を』いただきます」と内海さん。「町の歴史や食文化を微力ながら伝えることで、町を誇りに思う方々が増え、将来の町を担う子供たちがふるさとを慕う気持ちが育まれることに願います」と話してくださいました。

(取材・文 桃尚尚典)

-旅館の情報
里山旬味 うちみ旅館

● 富城県宮城郡利府町菅谷字明神沢1
● 022-356-3145
● <http://sawaoto-onsen.com/>

アクセス

●仙台駅より車で約30分
●仙台北部道路「しらかし台IC」より車で約3分
●JR東北本線「岩切駅」または「利府駅」よりタクシーで約10分



利府町で暮らす面白い人を毎号ひとりずつ紹介しています

十符(とふ)とは? 普、利府町の湿地帯には、良質な菅(スゲ)草が生じ、「菅薺(スガコモ)」と呼ばれる敷物が作られていました。その菅の編み目が10編あることから「十符の菅薺」と呼ばれ、みちのくの「歌枕」としてもうわれていました。これが、「十符の里」「十符の浦」と呼ばれるようになります。利府(と)に、符が府に変わったと言われています。

from Tsumiki CHALLENGER

— CHALLENGER —
レッド コメント インテリジェンス
Red Comet intelligence 佐藤聰明さん(45歳)
佐藤聰明さん(45歳)



tsumikiから起業第1号

佐藤聰明さんは2017年3月に企業、団体向けのコミュニケーション・チームビルディング研修を請け負う「Red Comet intelligence」を起業しました。佐藤さんが提供するセミナーは、「遊び」という実践を通してチームワーク、コミュニケーションを「学ぶ」ことが特徴。「人材育成に取り組むことが難しく、手が届きにくかった中小企業の方々にも受講してもらいたい」と、部署単位での受講も可能な、比較的リーズナブルな価格で開催できる料金設定にしています。「お互いに助け合って切磋琢磨し合える関係がチームワークに必要だと思う。そのうえで足りない部分は、チームメイトに補ってもらえる関係になれるよう手助けしたい」と言います。

独立を考えたきっかけ

そもそも人材育成に関わり、コミュニケーションとチームワークについて教えていた佐藤さんが、ある研修会を受けた時のこと「あなたにとって人生で大事な物はなんですか?」と、質問されて「楽しく暮らしていくことが大事だと自覚したんです」と言います。以前、自分の研修を受けてくれた部下が楽しみながら学んでくれていたことを思い出し、「職場を楽しくする仕事をしたいという思いが湧いてきました」と佐藤さんは話します。



一歩一歩、思いを伝える

会社を退職し独立の準備を行う中、利府町の広報紙でtsumikiの前身「Rifu-Co-Labo」の開催を知り、tsumikiという施設をつくるワークショップに携わる機会を得ました。2016年6月から半年間関わっていく中でいろいろな気づきがありました。「子どもの頃は誰もが遊びから何かを学ぶことはあったはず。ならばセミナーの主体を『遊び』に置き換えてみるのはどうだろうか?」と、「遊び」の中から「学ぶ」コミュニケーションセミナーを、佐藤さん自身が講師になって活動することに至りました。独立後はtsumikiの一角を借りてお試しセミナーを行ったり、利府町役場や町内の会社に営業にいったりと、まず「Red Comet intelligence」を知らせることが先決です。利府から「遊び」を通して「学ぶ」機会を広げるための佐藤さんの新たな物語は、まだ始まったばかりです。

(取材・文 tsumikiライター 松二人)

**教える側が楽しくなければ
教えてもらう側も楽しくない**

INFORMATION

Red Comet intelligence
☎ 090-9536-0085
✉ <レッドコメントインテリジェンス>で検索
<https://redcometintelligence.wixsite.com/mysite>

社名の秘密はウェブサイトで!

tsumiki INFORMATION

2017.6 6月
「つみきラジオ」配信スタート!
5月から、youtubeにてラジオ番組「radionista in tsumiki」(ラジオニスタ イン ツミキ)がスタートしました。tsumikiスタッフの佐藤聰友がパーソナリティを務め、利府町の魅力やイベント情報の発信、利府町で活動している人の対談などをを行っています。「利府町で活動しているあなたのお話を伺ってもらいたいですか?」利府町の面白い人の情報をお待ちしています!
視聴方法 Youtube » 「tsumiki 利府」検索 » radionista in tsumiki ラジオニスタ イン ツミキ



こあきない市



大好評!「こ・あきない市」

tsumikiでは、定期的にチャレンジマーケット「こ・あきない市」を開催します。「こ・あきない」には、小さな商いをみんなでやる(Co)という意味が込められています。去る、6月17日(土)には「夏の陣」を開催し、利府町内外から15ブースがお店。たくさんの方々にお越しいただきました。今年度の開催予定は、次のとおりです。詳しくは、「広報りふ」やtsumikiホームページなどでお知らせしますので、お楽しみに。

次回開催 2017年10月15日(日)

「こ・あきない塾」この夏から開講予定!

「好きなことを仕事にしたい」「いつか自分のお店をもちたい」そんな人たちのために「こ・あきない塾」を開催します。小さいビジネス、小商いを実現させるため実践者の話を聞いたり、現場を訪問したりしながら、具体的に実現可能な方法を見つけていく連続セミナーです。詳しい内容は、tsumikiホームページ(rifu-tsumiki.jp)などでお知らせします。

「tsumiki 交流会」を定期的に開催します。

tsumikiは、利用者が思いやアイデアを実現する場です。新たなビジネスやプロジェクトを生み出すきっかけとして、tsumikiに集まる多彩な人たちとの交流を図ります。どなたでもご参加いただけます。
開催予定 7月28日(金)/9月29日(金)/11月24日(金)/12月23日(金)
各回19:00~21:00 ※予約不要です



tsumiki

利府町まち・ひと・しごと創造ステーション

利用時間
9:30~17:30

(水・金曜日は21:00まで開館)

休館日
火曜日・年末年始

〒981-0104

宮城県宮城郡利府町中央1-5-2

TEL 022-766-9231

FAX 022-766-9232

Email info@rifu-tsumiki.jp

設置者 利府町(政策課政策班)

利府町では、地方創生に向けて良好な住環境に「ワクワク感」をプラスした魅力的なまちづくりを進めています。政策課政策班は、地方創生の総括部門として「利府ならでは」のシティセールス政策や、移住・定住政策などに取り組んでいます。同時に「Granny」には「おせっかい」という意味があり、地域のおせっかいをやく役割を担うという意志が込められています。

公式ウェBSITE

rifu-tsumiki.jpTwitter [@rifu_tsumiki](https://twitter.com/rifu_tsumiki)Facebook [@rifutsumiki](https://www.facebook.com/rifutsumiki)Instagram [@rifutsumiki](https://www.instagram.com/rifutsumiki)

つみきのキモチ vol.04 発行日2017年6月30日 発行・利府町
企画・一般社団法人Granny Rideto 編集・桃生和成・葛西淳子(一般社団法人Granny Rideto) デザイン・homesickdesign